



2006年8月15日

ロールス・ロイス、米国海軍の次世代型沿岸戦艦向けに新規受注

【英国 2006 年 8 月 14 日】民間航空、防衛航空、船舶、エネルギー各分野の世界市場において事業展開をするロールス・ロイス社（本社：英国ロンドン、CEO：サー・ジョン・ローズ、以下「ロールス・ロイス」）は、米国海軍より、戦艦向けとしては世界最大のガスタービンエンジンを次世代型戦艦向けに受注したことを発表しました。

ロールス・ロイス製の MT30 ガスタービンエンジン 2 基が、ロッキード・マーチン社（Lockheed Martin、以下「ロッキード・マーチン」）設計による 2 番艦の沿岸戦闘艦（LCS）に搭載されます。同タービンは、同じくロッキード・マーチンが設計した 1 番艦の LCS「フリーダム」（LCS 1）にも搭載されています。

今回の契約に見られるように、MT30 プログラムは米国において好調に推移しています。MT30 は過去にも、フィラデルフィアの米国海軍研究所で開発されたノースロップ・グラマン社（Northrop Grumman）製の駆逐艦 DD(X)の統合動力システム技術開発モデルにおいて採用されました。

今回の LCS に搭載されるガスタービンエンジンは、2007 年初頭に米国ルイジアナ州ロックポートのボリンジャー造船所（Bollinger shipyard）に納入される予定です。

ロールス・ロイスは、同艦の性能と操縦性を最適化させるために、ロールス・ロイス Kamewa ウォータージェット 4 基を供給します。同様に、このウォータージェットは「フリーダム」にも搭載されています。ロールス・ロイスは、両艦船に対して軸受やシャフトも提供しています。

ロールス・ロイスの海軍船舶部門社長、パトリック・マロルダ（Patrick Marolda）は次のように述べました。「今回の契約は、MT30 ガスタービンエンジンの長所はもとより当社の技術力、そして米国海軍への当社の継続的なサポートに対してロッキード・マーチンが寄せた信頼の証であると大変光栄に思っています。」

ご参考：

1. LCS とは、米国海軍の沿岸海域における作戦能力を向上する目的で設計・建造されている艦船です。
2. ゼネラル・ダイナミック社も、同じクラスの艦船を 2 艦建造する予定です。
3. MT30 の設計は、1996 年の稼動以来 800 万時間以上の累計飛行時間を記録している航空機用エンジン Trent 800 と、8 割の共通点があります。

4. 「フリーダム」は 2006 年秋に進水し、2007 年に米国海軍に納品される予定です。
5. ロールス・ロイスは、大型ウォータージェットの研究、開発、製造を行う世界のリーディング・カンパニーです。北米の民間および海軍の船舶に対して数百基のエンジンを供給しており、これらには、米国海軍の高速双胴実験船 **X-Craft** や、特殊作戦部隊により広範に利用されている全長 11 メートルのリッジ付きインフレーターボート (**RIB**) も含まれます。